

「人を活かし，人と生きる」

栃木刑務所処遇部統括矯正処遇官 薊 理世子
(平成14年採用・I種)

皆さんの子供の頃の夢は何でしたか。私は「婦警さん」になるのが夢でした。単にそのカッコいい制服姿に憧れただけでしたが、今から思えば、その頃から、国民の安全を守る仕事に漠然とした興味があったのかもしれませんが。

私は、大学で刑事政策を専攻し、試験合格後は、その分野に関係する官庁を訪問しましたが、政策の企画立案と現場勤務の両方ができることと、採用担当者の人柄とに魅力を感じ、勤務先に法務省を選びました。

採用後現在に至るまでの間、他省庁への出向を含めた多様な業務を経験し、多くの尊敬できる上司や同僚と出会いました。これは、法務省職員にならなければできなかつた経験であり、私の財産となっています。

私は、現在、栃木刑務所という、女子受刑者を収容する刑事施設で、現場の中間監督者である統括矯正処遇官として勤務しています。職場の大半を女性が占める職場で、育児等と仕事とを両立させている職員も多く、日々、その姿を見て元気と勇気をもらっていますし、私も、人として、女性として、もっと多くの経験を積みたいと強く感じます。

法務省の仕事は、一見地味なものが多いかもしれませんが、そのほとんどが国民の人生や生活を守るルールにかかわるもので、非常に多岐にわたっています。だからこそ、自分の経験を活かしたり、人と生きていく自分を実感できたりする機会が多いのではないのでしょうか。このような仕事に魅力を感じる方、法務省でお待ちしています。